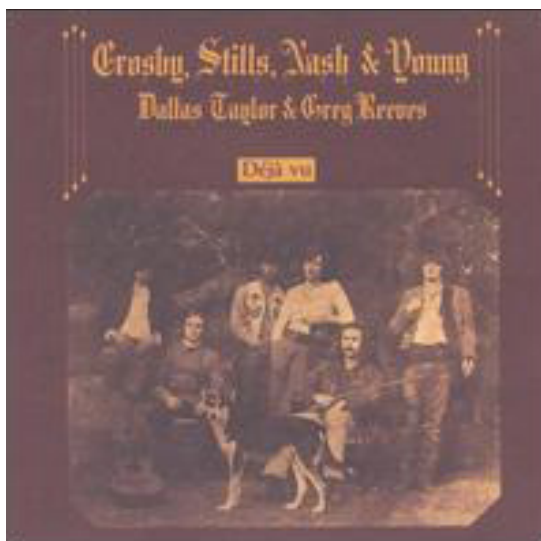


Music

クロスビー、スティルス、ナッシュ & ヤングの『デジャ・ヴ』
このアルバムとともに、大人の階段を上った

Text: George Cockle
文/ジョージ・カックル
Photo: Bill Krause
写真/ビル・クラウス



誰の人生でも、自分の道を切り開かなければならない時が来る。そんな10代後半に、俺や俺の友達が何年も聴き続けていたアルバムがこれだ。

オリジナルメンバーのデビッド・クロスビー、スティーブン・スティルス、グラハム・ナッシュの3人が「クロスビー、スティルス&ナッシュ」としてデビューしたのは1969年。アメリカのアコースティック・ロックブームを作ったバンドと言っても過言ではないだろう。『イーグルス』と『アメリカ』がデビューする3年前の話だ。最大の音楽イベント『ウッドストック』にも参加し、スーパースターになった。その翌年、音にもっとロック感を加えるため、もうひとりのメンバー、ニール・ヤングを迎え、バンド名をクロスビー、スティルス、ナッシュ&ヤングとして、アルバム『デジャ・ヴ』を発表した。それが1970年だ。

今になっても、このアルバムはロックのマスターピースのひとつだ。70年代を象徴する一枚である。この時代を知っている人は懐かしいだろう。70年代を知らなくても、ここから聞きはじめてほしい。4人のメンバーがそれぞれに曲を書き、素晴らしい仕上がりになっている。バーズのメンバーだったデビッド・クロスビー、イギリスのホリース

のメンバーだったグラハム・ナッシュ、そしてバッファロー・スプリングフィールドからはスティーブン・スティルスとニール・ヤングと、それぞれ有名なバンドのメンバーだった。ヒット曲はグラハム・ナッシュの『ティーチ・ユア・チルドレン』、そして今ではキャンプファイヤーソングのスタンダードになっている『ヘルプレス』だ。

このアルバムが発売された当時、高校生だった俺は韓国に住んでいた。そして最初に書いたように、このアルバムを本当に何年もよく聴いていた。高校を出て、大学に行きながら仕事して、世界一周の旅に行き、ようやく1年後にアメリカにたどりついた時も、このアルバムはいろいろなラジオから聴こえてきたし、友達の家に行ってもよくかかっていた。俺の人生のサントラのひとつだった。その後、アメリカに住んでからも、韓国時代の友達が訪ねてきて、このアルバムを聴きながらよくヒッチハイクしてアメリカ中を回った。20代前半になってもそれは続いた。大学に通っている友達、仕事をしている友達、誰もが自分の人生を探している。でも、誰もこれから人生がどんなふうにかがっていくか見えていなかった。俺は世界を一人旅して大人になったと思っていた

が、今思えばそうでもなかったと思う。まだ自分があやふやだった。

このアルバムの中に『カット・マイ・ヘア』という曲が入っている。曲の中では長い髪がちょっと邪魔になってきたし、切ってしまうかと歌っている。でもまだ切っていない。自由を求めたり、ラブ&ピースや戦争反対を唱えたり、そういった心を象徴する意味のある長い髪を切りたくない、そんな思いがあるからだ。フリークの旗を飛ばす。60～70年代の理想主義とも言えるだろう。

それからかれこれ40年経つ。自分の外見は変わっているが、中身はあの時からあまり変わらない。この写真のなかに写っている何人かとは、今でもインターネットを通じて交流している。今でもこのアルバムを聴くと、その若かった頃の、理想論が蘇ってくる。そして今でも俺は、これから大人の道に向かっていくのだと、夢を持っていることに気づく。

もうヒッチハイクの旅に出て、友達に会いには行かないけどね(笑)。



ジョージ・カックル ● 60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com